

大果で良食味のニホンナシ新品種「秋満月」の育成

押田 正義

千葉県農林総合研究センター 果樹研究室

1. はじめに

千葉県におけるニホンナシの栽培面積は1,340ha(2021年作物統計調査)と全国1位であり、本県を代表する作物となっている。品種別の栽培面積割合(2018年特産果樹動態等調査)は、早生品種の「幸水」が約50%、中生品種の「豊水」が約30%と全体の約80%を占めている。一方、晩生品種は「新高」が約9%、「あきづき」が約5%、「平塚16号」が約2%などと多様な品種構成となっている。このうち「新高」は2003年には全体の約14%を占めていたが、15年間で大きく減少している。これは、果肉が粗いなど果実品質が「幸水」や「豊水」に比べて劣り、消費者の嗜好に合わなくなっていること、年次により果肉がスポンジ状になる「ふけ果」などの生理障害が多発し、秀品率が低下することなどが原因と考えられる。一方、2001年に品種登録された中晩生品種の「あきづき」は、果実品質が優れ秀品率も高いことから普及が進んでいる。しかし、「新高」に比べて収穫期が早いことや日持ち性が短いことなどから、一部を代替するにとどまっている。

そこで、大果で良食味の晩生品種の育成に取り組み、新品種「秋満月」を育成したので紹介する。

2. 品種育成の経過

千葉県農業総合研究センター育種研究所果樹植木育種研究室(現千葉県農林総合研究センター果樹研究室)において、2001年に「豊水」を母本に、「7-7」を父本にして交雑を行った(図1)。なお、「7-7」は1984年に「新雪」に「平塚16号」を交雑して育成した系統である。2002年に播種し、得られた交雑実生は成木に高接ぎして早期結果を促した。2007年に初結果し、果実品質がとくに優れていたため、2008年から有望系統として詳細な特性調査を始めるとともに、県内5カ所の生産者ほ場において現地適応性試験を開始し

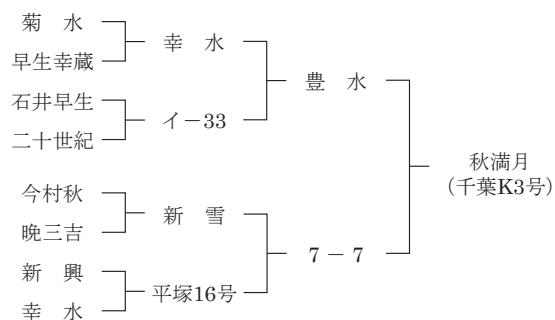


図1 「秋満月」の育成系統図

た。その結果、総合的に有望であると認められたため、2013年12月27日に「千葉 K3号」と命名して種苗法に基づく品種登録出願を行い、2017年4月12日に品種登録された(登録番号第25952号)。2019年9月から12月にかけて愛称を公募し、2021年5月13日に「秋満月」と決定、公表した。

3. 品種の特性

育成地(千葉市緑区)における品種特性は以下のとおりである。

1) 樹の特性

樹勢は、成木に高接ぎした場合はやや弱であるが、若木の樹勢は強く樹冠の拡大は容易である。枝の発生密度はやや少ない。短果枝の着生は多く、「豊水」より多く「新高」並みである。また、短果枝の維持も良好であることから、「新高」と同様の短果枝主体の剪定で花芽の確保が可能である。一方、腋花芽の着生はやや少で「豊水」および「新高」より少ない。

開花始は4月10日、開花盛は4月13日で、「新高」より遅く「豊水」と同程度である(表1)。「新高」を除く主要品種と交雑和合性がある。なお、自家不和合性を司る複対立遺伝子(S遺伝子型)は「新高」と同じS₃S₉であり、交雑試験の結果と矛盾がないことが明

押田：大果で良食味のニホンナシ新品種「秋満月」の育成

表1 「秋満月」, 「豊水」および「新高」の開花期, 収穫期および果実品質

品 種	開花期 (月/日)		収穫期 (月/日)		果重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (pH)	硬度 (lbs)	食味	日持ち性 (日)
	始	盛	始	終						
秋満月	4/10	4/13	9/15	10/4	733	13.2	5.3	3.4	0.7	28
豊水	4/8	4/13	8/29	9/18	521	13.0	4.8	3.6	0.2	11
新高	4/5	4/10	9/18	10/7	632	12.4	5.2	5.1	-0.6	18

- 1) 開花期, 収穫期および食味は2009~2011年の3カ年の平均値, その他は2007~2011年の5カ年の平均値
- 2) 食味の数値は悪い(-2)~普通(0)~良い(2)の5段階評価の平均値
- 3) 日持ち性は, 冷暗な倉庫内に静置した果実について, 育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法(2007)に準じて判定した

らかになっている。黒斑病には抵抗性, えそ斑点病は病徴非発現性である。黒星病は慣行の赤ナシの薬剤体系で防除可能である。

2) 果実の特性

果皮の色は黄赤褐色, 果実の形は円形である(写真1)。果肉の色は白く, 果芯の大きさはやや小さい。「豊水」で見られる傾き果などの変形果が発生するため, 果実の揃いは中である。収穫始は9月15日, 収穫終は10月4日で「新高」とほぼ同時期である(表1)。果重は733gで「新高」より大果である。糖度は13.2, pHは5.3で, 酸味が少なく甘い。硬度は3.4ポンドで軟らかく, 肉質は滑らかで果汁が多く, 食味は極めて良好である。日持ち性は常温で28日と長い。生理障害については, 心腐れ, 生理的裂果, 硬化障害はほとんど発生しないが, みつ症は園地および年次により発生が認められる。また, 軸折れによる落果がやや認められる。

3) 栽培上の留意点

短果枝の着生および維持が良好なためせん定は容易



写真1 「秋満月」の果実外観

であるが, 新梢発生が少ないため側枝更新は計画的に行う。また, 花芽が多いことに加えて果そう葉が垂れ下がるように着生するため, 摘果時に果実を確認しにくい場合がある。花芽整理により短果枝の花芽数を減らしておく。

生理障害ではみつ症の発生が問題になる。これまでの現地試験から, 土壌が乾燥しやすい園で多く, 水田転換園など地下水位が高い園で少ない傾向がある。また, 「豊水」でみつ症の発生が少ない園では, 「秋満月」でも発生が少ないので, そのような園を選んで栽培する。乾燥しやすい園で栽培する場合は, かん水が有効と考えられる。樹勢の弱い樹で発生が多いので, 白紋羽病などで樹勢を低下させないように注意する。日焼け果では日焼けの部位にみつ症が発生しやすいので, 摘果時には直射光が当たらない果実を残す。なお, 「秋満月」のみつ症は「豊水」のみつ症に比べ外観からの判別がやや難しいため, 選果は慎重に行う。

4. おわりに

「秋満月」の愛称は, 収穫の秋, 満月のように大きく実ったナシに, 農家と消費者の喜びと感謝の気持ちを込めて名付けられた。この期待に応え, 市場出荷や直売など様々な販路で有利販売が行われるよう, 引き続き栽培技術の開発に取り組んでいく予定である。なお, 現在「秋満月」の販売は現地試験の協力農家がおもに行っており, 生産量が限られている。苗木の配付は2019年から県内限定で開始しており, 今後それらが結果樹齢を迎えるにつれて生産量も増加すると見込まれる。

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180-1

(おしだ まさよし)